

令和6年度 経営の重点「か・が・や・く」を振り返って

令和6年12月

学校教育目標

チャレンジ！夢に向かって～ふるさとを愛し、一人一人が「か・が・や・く」国見の子の育成～

重点目標1 『か』 「確かな学力」＜知＞

かんがえる子どもの育成＜前向きに生きる＞

（自ら考え、判断し、責任をもって行動する子ども）の育成

〔達成指標〕①「勉強が好きだ」と回答した子どもの割合（肯定的な回答の割合）を80%以上にする。

※7月のアンケートで肯定的な回答をした子どもの割合は82%でした。

②「ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した子どもの割合（肯定的な回答の割合）を85%以上にする。

※7月のアンケートで肯定的な回答をした子どもの割合は90%でした。

③「ふだんの授業では、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う」と回答した子どもの割合（肯定的な回答の割合）を85%以上にする。

※7月のアンケートで肯定的な回答をした子どもの割合は90%でした。

＜12月までの成果と課題＞

本校では学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に取り組んできました。授業では、自分の考えをもち、友達や先生との対話を通してさらに考えを広げ深める授業づくりを目指し、日々授業実践しているところです。また、タブレット端末を子どもたちが文房具のように活用し、教職員の専門性を生かしながら子ども一人一人の興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む態度の育成につなげています。学年によっては1人1台端末の持ち帰りを行い、家庭学習にも活用しています。



＜3・4年複式学級 国語の授業の様子＞

今年度は複式学級の指導方法について研究をしてきました。1・2年複式学級では、一つの教室で4人が学習し、互いに教え合いながら授業を行っています。3・4年複式学級では、学習内容に応じて一緒の教室で学習したり、別々の教室で学習したりしながら互いに学び合う授業を行っています。また、2名の複式学級支援員が子ども一人一人のつまずきに対応し、学力向上につなげています。

課題としては、全国学力・学習状況調査をはじめとする各種調査結果から、苦手教科や難しい問題に対して粘り強く取り組むことができない子どもや基礎的・基本的な学習内容が十分に定着していない子どもが多いことがあげられます。授業と連動した家庭学習を推進するとともに、子ども一人一人が学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを通して、自ら学び、考える子どもの育成に全教職員で取り組んでいきます。

重点目標2 『が』 「健康・体力」<体>

がんばり抜く子どもの育成<たくましく生きる>

(生命を大切にし、生命を輝かせて日々努力する子ども)の育成

〔達成指標〕①「苦手な運動にもあきらめず、最後まで全力に取り組んでいる」と回答した子どもの割合(肯定的な回答の割合)を80%以上にする。

※7月のアンケートで肯定的な回答をした子どもの割合は89%でした。

②「学校・家庭・地域で『あいさつ、返事、後始末』ができていいる」と回答した子どもの割合(肯定的な回答の割合)を100%にする。

※7月のアンケートで肯定的な回答をした子どもの割合は89%でした。

③「交通ルールを守り、自分の命を大切に日々生活している」と回答した子どもの割合(肯定的な回答の割合)を100%にする。

※7月のアンケートで肯定的な回答をした子どもの割合は100%でした。

<12月までの成果と課題>

本校の子どもたちは、体育の授業や外遊び等の運動に積極的に取り組んでいます。学校でも子ども一人一人の体力を高めるために、チャレンジタイムを活用した持久走、さらには校内マラソン大会の実施など意図的な向上策を講じ、運動の楽しさを感じながら体力向上につなげることができています。



<校内マラソン大会の様子>

4月27日(土)に行った運動会では、

子どもたち一人一人が生き生きと運動する姿が見られ、保護者や地域と一体となった運動会を実施することができました。

交通安全については、5月15日(水)に警察等と連携して交通安全教室を行い、特に自転車運転の際はヘルメットを着用することを徹底して指導しました。また、校長が毎朝街頭指導を行うとともに、PTA安全・環境部と連携して交通安全の看板設置や街頭指導を行いました。他にも避難訓練の実施とともに着衣泳の体験を行い、自分の命は自分で守る体験を行いました。今後も校内や校外での安全指導を定期的に行い、落ち着いた生活のもとで事故防止の徹底に努めます。

「あいさつ、返事、後始末」については、少しずつできるようになってきていますが、まだまだ課題は残ります。特に望ましい言葉遣いについては、これまで以上に重点的に取り組んでいきます。また、本校では半数以上の子どもが裸眼視力1.0未満となっており、視力低下が課題となっています。その要因としてスマートフォンやタブレット端末でのゲームや動画の視聴の機会が多くなったことや視聴時間が長くなってきていることが挙げられます。子どもが自らの健康について自覚をもち、基本的な生活習慣を身に付けることができるよう家庭と連携して取り組んでいきます。

重点目標3 『や』 「豊かな心」<徳>

やさしさあふれる子どもの育成<共に生きる>

(思いやりの気持ちを持ち、他者と協働して行動する子ども)の育成

〔達成指標〕①「自分にはよいところがある」と回答した子どもの割合(肯定的な回答の割合)を90%以上にする。

※7月のアンケートで肯定的な回答をした子どもの割合は86%でした。

②「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した子どもの割合(肯定的な回答の割合)を90%以上にする。

※7月のアンケートで肯定的な回答をした子どもの割合は96%でした。

③「地域のためになる活動に進んで取り組んでみたいと思う」と回答した子どもの割合(肯定的な回答の割合)を90%以上にする。

※7月のアンケートで肯定的な回答をした子どもの割合は100%でした。

<12月までの成果と課題>

豊かな心を育むためには、道徳的な課題に子どもたちが向き合い、考え議論する態度を育むことが重要です。そこで、今年度は道徳科を研究の重点教科として位置付け、全教職員で道徳科を要とした道徳教育の充実に力を入れてきました。また、総合的な学習の時間や校外学習において、子どもの発達段階に応じた様々な体験活動や校外学習(1・2年生はモリボの里、3・4年生は秋田ふるさと村、5年生は田沢湖宿泊学習、6年生は修学旅行など)を計画・実施しました。さらに、勤労の尊さや社会に奉仕する心を育成するために、地域と連携した花壇づくりや福祉体験にも取り組みました。



<1・2年複式学級 道徳の授業の様子>

本校では今年度、読書活動の推進にも力を入れてきました。読書活動は、知識を広め、心を豊かにするなど、人生をよりよく生きるために欠かせないものです。朝読書への取組とともに、公立図書館や書店等と連携しながら読書環境の充実に取り組みました。その結果、「読書が好き」と感じている子どもが増えてきました。

課題としては、「自分にはよいところがある」と感じている子どもがやや少ないことがあげられます。子どもたち一人一人が自己肯定感(自己の存在を肯定的に捉え、自らを尊重する感情)や自己有用感(他人の役に立った、他人に喜んでもらえたなど、相手の存在なしには生まれてこない感情)を高め、友達と共に助け合ってチャレンジしようという心を育むためにも、子どもたちに任せ、失敗しながらも自分たちの力でやり遂げる喜びや達成感を感じられる場面を意図的に設け、子どもたちの頑張った過程を認め、褒めていきたいと考えています。

重点目標4 『<』 「心理的安全性の確保」<安心・安全>

- <うきのおいしい学校～「きょう育」でつなげる「三方よし」の学校～
- 「響育」…子どもにとって、夢を語り合い、学びがいのある学校
- 「共育」…教職員にとって、働きがいのある学校
- 「協育」…保護者・地域にとって、応援しがいのある学校

〔達成指標〕①「学校が楽しい」と回答した子どもの割合（肯定的な回答の割合）を90%以上にする。

※7月のアンケートで肯定的な回答をした子どもの割合は86%でした。

- ②「お子さんは学校が楽しいと言っている」「学校は、お子さんの個性を理解し、学校全体で、そのよさを伸ばす指導をしている」と回答した保護者の割合（肯定的な回答の割合）を90%以上にする。
- ③「本校では、学校における働き方改革が進んでいる」と回答した教職員の割合（肯定的な回答の割合）を90%以上にする。
- ④「学校は地域の声を生かし、地域と連携した活動に取り組んでいる」と回答した学校運営協議会委員の割合（肯定的な回答の割合）を90%以上にする。

<12月までの成果と課題>

子どもたちが生き生きと学び、家庭や地域に信頼される学校づくりをしていくためには、保護者や地域の皆様の理解と協力を得ながら教育活動を展開していくことが大切になります。そのためには、学校の様々な情報を保護者や地域の皆様に積極的に発信する「開かれた学校づくり」をしていく必要があります。そこで今年度は日々の学校だよりや月ごと



<第18回全校音楽劇の様子>

の地域だよりの発行、さらには学校ホームページを充実させることで、情報発信に力を入れてきました。また、今年度はPTA改革（フリー参観の導入やプール監視の保護者依頼の廃止など）にも取り組み、保護者負担の軽減につなげることができました。

本校はコミュニティ・スクールとして「地域とともにある学校」「学校を核とした地域づくり」に取り組んできました。今年度は新たに家庭科のミシン学習やプール清掃、全校稲刈り体験学習に地域の皆様や地元の高校生に協力していただくなど、地域の教育力を取り入れた教育活動を展開してきました。

11月10日（日）には太田文化プラザで第18回全校音楽劇を行いました。12年ぶりに「スイミー」にチャレンジし、本公演当日はたくさんの保護者や地域の皆様から御来場いただきました。全校音楽劇を通して、子どもたちが地域に元気を与え、地域活性化に寄与することができたように思います。ただ、児童数が急激に減少する中で、伝統ある全校音楽劇をどのように継続していくかが大きな課題となっています。